



陽気は幸せの種

陽気だより

No82

2014.1.15

●ホームページからも「陽気だより」

最新号・バックナンバーをご覧ください

<http://yotokusha.com/>

図書出版 養徳社 〒632-0016 天理市川原城町 388 TEL 0743 (62) 4503 / FAX 0743 (63) 8077

養徳社

検索

昭和31年1月号から

『陽気』は、昭和24年4月の創刊、今年で65年を迎えます。過去の記事から、その歩みの一端を振り返っていきます。

世界の正月

—イギリスにて—

高見庄藏

(昭和三十一年当時・児島分教会前会長)

一九一一年(明治四十四年)の一月一日は朝から小雨がぱらつき、ここロンドン、キングスフォードの教宅の門外は人通りが少なく、車馬の交通もいつもよりグンと少ない。けれどこれは正月ゆえの現象ではない。きょうは日曜日だからだ。

なにしろ、私がロンドンで迎える正月だけに、背負い投げをくわされた形であった。イギリスでは日曜日の商店の営業はタバコ屋とチョコレート屋ぐらいで、交通も半減する。この年の一月一日は英国人にとっては日曜日ではない。それを私は正月であるという思いにとらわれて、正月気分を満喫しようとして期待していたのであった。

けれども、日本人としての通念から、よし正月らしからぬ正月であっても、お祝いだけでもしなければと、元旦祭

の準備にとりかかった。めでたい縁起をかついで鯛を買って焼き物にした。日本では最上級の鯛は英国では最も下劣な魚とされ、特大でも一シリングも出せば魚屋は喜んで売ってくれる。お神酒は日本料理の店、正稲料理店へ日本酒を買いに行ったが、貧しい布教師にはわけてくれず、結局ビールで辛抱せねばならなかった。白米は食料品店でなかなか手に入れた。野菜はセロリ、餅の代わりにパンをお供えした。

かくて、神様にだけは正月気分を多少とも味わっていた。だいたつもりだが、私は雑煮も食べなかつた。スープのストックを作つて、これにメリケン粉のダングを入れて雑煮の代わりに食べた。そして神様のお下がりの鯛を、ガスストーブで塩焼きにして、めでたがつて食べた。

しかし、人々の間ではほんの言葉の上だけではあるが、「ハッピーニューイヤー」が交わされる。これがせめても私のなぐさめであった。

あえて時期的に日本の正月に代わるものを見出すならば、それはクリスマスだろう。宗教的な厳粛な行事が教会で行われ、国民は「ハッピーニューイヤー」を連呼して、歓喜する。ロンドンの休日にはクリスマスとクリスマスマス当日、それにバンクホリデー(銀行の休日)の三日にとどまっている。

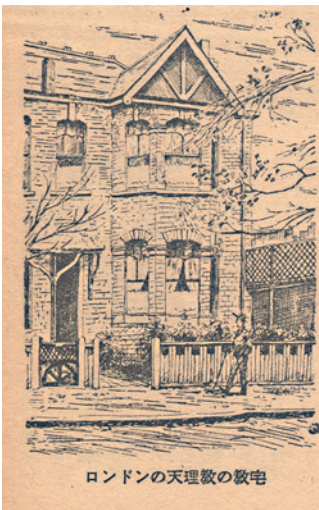
私は、スコットランドは多少日本の正月と似たことをする、というのを聞いていたので、大晦日の十二月三十一日、セントポール(ウエストミンスター寺院と並んで大きな教会)の広場へ行つてみた。ここでは夜の十一時ごろから民衆が集まり、スコッチウイスキーを飲み始め、百十一の除夜の鐘が鳴ると、これを合図に『蛍の光』のメロディーを合唱し、これが終わると老若男女、人種、血縁の差別なく、スコッチダンスを十二時過ぎまで踊る。帰りは電車もない。仕方なく屋台店を見物しながらテクシーで帰つてきた思い出がある。

けれど、これも大晦日だけの賑わいで、しかもスコットラン

ド人に限られている。

だから私は、日本の正月とクリスマスとを私流にこう思うのであった。クリスマスはキリストの生誕を祝して、国民があげてこんなにも厳粛に行うとするならば、われわれ日本人の正月は一月の一日で、月日親さまのご誕生だから、松竹梅の門松を立てて、これもまた厳粛に行うといえるのではない。しかし、西欧人は月日を親と思っていない。「神」の観念は彼等にはわかって、「月日」に対しては天文学的な解釈にしか受け取れない。月日親の観念を納得せしめなければ、ちばという言葉が通じないのではないかと。

一九一一年の元旦は華氏四〇度(摂氏四・五度の寒さで平常の日曜となんら変わらず、宵闇せまる霧の中に消えていったといった風情であった。



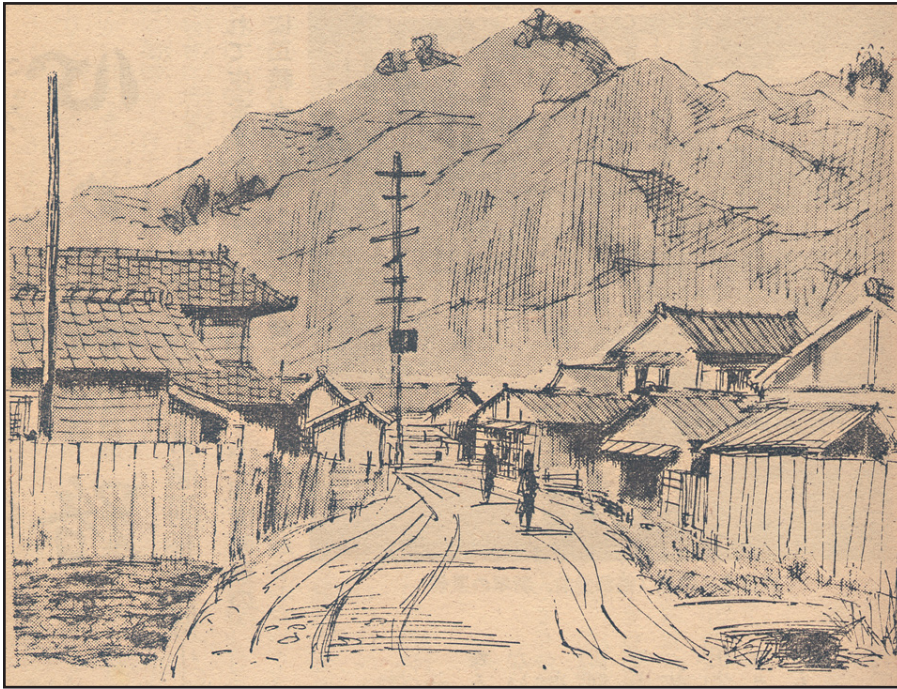
ロンドンの天理教の教宅

教祖ゆかりの地

—河内路—

文・高野友治
絵・青山文治

明治十五年、教祖は、松村さく様の病氣見舞いに、高安村の松村家へおいでになった。このときは人力車にお乗りになって、大和川の堤を、亀ノ



瀬峠を越えておいでになったのだ。法善寺、大縣、恩智と御車の行くところ、河内の信者たちが教祖を拝み申そうと慕い寄って来たということだ。今、その道を歩いてみる。山や村に変わりはなかるうが、このあたり（安堂付近）近代都市大阪の郊外という感じがつよい。

陽気ひめくり

教会名を入れると記念品に最適

文・筒井敬一
書・杉岡華山
絵・青山文治



記名無料サービス (10冊以上)
お申込みの文面を4cm×12cmの厚紙に1色刷りして下部にはりつけます

定価420円(税込)送料150円

※ご注文は前払いとなりますので定価に送料を加算して郵便振替にてご注文下さい。

反響続々

[改訂増補]

このころの さんぽ道

篠田欣吾 著
(龍分教会前会長)

定価 1,260 円 (税込)
送料 200 円

※ご注文は前払いとなりますので定価に送料を加算して郵便振替にてご注文下さい。
2冊以上のご注文は送料が異なりますので、業務部までお問い合わせ下さい。

陽気 2

特集 たすけあい



「あゝ、かんと告げられたあと」久須美房子
「あゝ、かんと告げられたあと」久須美房子
「あゝ、かんと告げられたあと」久須美房子

購読に関する問合せ先
0120-920-398
養徳社 業務部窓口

月刊『陽気』定価改定についてのお願

本誌は平成二十二年以来、出来るだけ安価でこ愛読いただきたくと定価を据え置いてまいりましたが、諸原価の高騰により経営努力も限界に達しました。加えて平成二十六年四月から消費税率が八%に引き上げられるため、本年五月号より定価二百二十円(税込)に改定させていただきます。尚、平成二十六年三月三十一日までに、平成二十六年五月号以後の代金をお納めいただく場合は、改定前の定価二百円で、ご購入していただけます。尚、平成二十六年三月三十一日までに、平成二十六年五月号以後の代金をお納めいただく場合は、改定前の定価二百円で、ご購入していただけます。尚、平成二十六年三月三十一日までに、平成二十六年五月号以後の代金をお納めいただく場合は、改定前の定価二百円で、ご購入していただけます。

Facebook で最新情報をチェック! <https://www.facebook.com/yotokusha>

この「陽気だより」を支部例会などの折、広く養徳社からのお知らせとしてご利用くださいますよう、お願い申し上げます。
<書籍・陽気のご購入方法について>前払いをお願いしております。お近くのゆうちょ銀行に備え付けの振込用紙をお使い頂き、[住所、氏名、電話番号、書名(陽気希望月号)、冊数]を明記の上(振替口座番号00990-3-17694番 加入者名 養徳社)へご送金ください。手数料はお客様負担となります。ご入金を確認後、速やかに商品を発送させていただきます。ご不明な点は養徳社までお問い合わせ下さい。フリーダイヤル0120-920-398 養徳社 業務部